

青年海外協力隊派遣の重要性

吉尾 啓介

(文部科学省大臣官房国際課長)

みなさん、あけましておめでとうございます。実は 10 年ほど前に、教育協力の仕事に携わったことがございまして、その当時いろいろ書いた報告書の中で青年海外協力隊への教員の現職参加がより円滑に進むように方策を講じるべきだというふうな報告書を書いたものでございますが、それが現代の現職参加制度ということに結びついてこうやってみなさんが帰ってこられた、これから出かけられるというお姿を目の当たりにして、非常に感慨深いものがございます。そういうことを書いた人間であるにもかかわらず、実はこのような報告会に出させていただくのは今回初めてでございまして、10 年来こういう機会が訪れることを心待ちにしておりました。中田先生、先ほど毎年楽しみにしてこられるということでございましたけれども、うらやましい限りでございます。今日は最後までいろいろとお話を聞かせていただきたいと考えております。それから少々遅れましたが、ご帰国になられました隊員のみなさまにはお帰りなさいと、それからこれからお出掛けになられる皆様方には元気でいってらっしゃいということを、まず申し上げます。

文部科学省はこのご案内の通り、教育に関わる仕事をやっておる役所でありますけれども、なかなか開発途上国での教育協力という点ではなかなか目に見えるかたちの活動ができていのかどうか自信のないところがございます。10 年くらい前からそのあたりに力を入れだしたわけでございます。伝統的にどちらかと言いますと、高等教育でありますとか技術教育といった面での協力にかなり力を注いできた感がございますけれど、1990 年のジョムティエン、タイのジョムティエンでの万人のための教育という宣言がされてから、初等中等への協力をどう進めていくかというところにかかなり注目を集め、その中で文部科学省でも何ができるかということでいろいろな諸策を講じてきたわけでございます。その中でこの直接的に初等中等教育に対する初等中等教育の現場に貢献できる現職の先生方を派遣ということは、非常に重視をしてきたところでございます。この 6 年間で、現職派遣制度ができて 6 年経っておりますが、この 6 年間でもうすでに 437 名の先生方にお出掛けいただきまして、来年度は 72 名の方にさらに参加していただくということで、着実に成果を上げているものと考えております。文部科学省といたしましては、初等中等教育の分野に限りませず、全体的に教育分野への国際教育を進めていかれる大学あるいは関係団体の方々の努力を支援しようということで、国際協力イニシアティブという事業を実施いたしておりますが、その中で特に現職参加制度で出かけられる先生方を支援していくということで、筑波大学をはじめとします 6 つの大学等に派遣された先生方の現地での活動や帰国後に実施される教育関連活動の支援を行っていただい

ております。本日はその関係でいろいろ成果が上がっておりますものを皆様方また出かけられる先生方に活動していただくということで、本日付の日付が刷ってございますが、冊子を用意させていただいておりますので、お持ち帰りいただいて参考にいただければ有難いことであるというふうに考えております。また筑波大学教育開発国際協力研究センターにおかれましては、皆様方の派遣前研修、派遣期間中の相談助言等の支援をいただいておりますのでございまして、皆様にとって心強い味方であると考えております。この場を借りまして筑波大学のセンターの皆様方に感謝を申し上げたいと考えております。

この1月5日のこのシンポジウムが今回皮切りということでございますが、特に日本各地でこのような制度の重要性、意義について理解を深めて、それから関心を持っていただくということが今後多くの方に参加していただく上で非常に重要であるというふうに考えておりまして、全国でシンポジウム、ワークショップを展開するということを計画いたしています。今月から来月にかけて高松、仙台、大阪でのシンポジウム、ワークショップを予定しておりますので、開催地付近におられます先生方、またお知り合いがそういう近隣の都市におられる先生方、広く呼びかけていただきましてこのようなシンポジウムにぜひ多くの方が参加していただけますように案内をいただければ有難く存じます。

さて、今年は洞爺湖サミットということで、中心的な課題は地球環境ということになるようでございますが、それも開発途上国との関係でいろいろな 이슈が含まれておりますのでございます。また、TICAD アフリカ開発支援会議、これも予定されておりました、今年は開発途上国への協力、特に教育といった場面でのいろいろな 이슈がとりあげられて、広く皆様方の関心にのぼることかと思っております。皆様方、教育の現場におかれましてそういった動きについても注目をしていただきまして、皆様方の活動の中にいろいろな形で還元していただきたいというふう考えております。

翻りまして日本の教育の現状でございますけれども、教育再生会議がいろいろ提言をされております。それから中央教育審議会で学習指導要領の改訂という作業が大詰めを迎えておりまして、これからますます現場の先生方、ご苦労多いと思います。それから先生方を取り巻く状況というのも免許更新制というふうなことが導入されて、いろいろな研修が取り入れられる、学校評価が厳密に行われるということで、非常に現場の先生方大変になられるなというふうに考えております。一方で OECD が 12 月の初旬に発表しました PISA の学力国際比較調査の結果ということでなんとなくいまひとつ元気が出ない感じがする日本の教育界でありますけど、何もそんなに悲観することはない。改善するところは改善するべきでありますけれども、悲観すべきことではない。日本の教育には誇るべき強さが十分にあるものと考えております。ではその強さは何なのかということを実はもう少し十分に研究して売っていけるような形にしたいものだと考えております。そういった意味で国際協力イニシアティブでいろいろな活動を大学の関連の先生方に展開していただいておりますのでございますが、よく考えてみますと開発途上国

での教育協力というのはなにも、日本が高所にあつて何かをしてあげているということでは全くないということを実感される先生方多いのではないかと思います。我々も何を日本として提供できるのかということを考え、どのように提供したらいいのかということ工夫していきますと、教育協力はなんというかつまるところ自分磨きの活動なのではないだろうかというふうな思いを強くいたしておるところでございます。現職教員派遣の重要性という題で挨拶をせよと言われたわけでございますが、若干教育協力に関して課長として日頃思っていることをまとまらないかたちでお話する形になりまして大変申し訳なく思います。最後になりますが、本日のシンポジウムが皆様方の交流の場としていろいろな形での実り多い機会になりますことを祈願いたしたいと思います。最後になりますが、JICA 青年海外協力隊事務局の本シンポジウムの開催にあたりましての多大なご支援をいただきましたことに感謝を申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。